

1.人工知能で自動化されていく中において、人間の役割とは

1-1.人工知能と人間の違い

人工知能と人間では大きな違いとして記憶の処理方法、演算方法、感情・理性の有無が挙げられる。記憶の処理方法に関しては、人工知能と人間はそれぞれ経験から学んだ記憶をラベリングする事で分類分けをするが、人工知能はそのラベリング付けに大きく左右される事なく記憶を保持出来るのに対して、人間は強く感情が付随した記憶は保持し続け、あまり感情が伴わない記憶は忘れやすいという、感情によるラベリングが記憶保持に関して強い影響を及ぼしている点が1つ目の違いである。

2つ目の演算方法に関しては、人間は物事を判断する際に感情等の自分では説明出来ない要素を判断材料に組み込む事があるのに対して、人工知能では学習した経験に応じて機械的に最も効率の良い判断を行う(※2)点が、2つ目の差異と言う事が出来る。ただ人間社会においては感情が組み込まれた判断が歓迎される場合もあるので、どちらが優れているかについての判断材料にはならない。

最後の感情・理性の有無に関しては、前述の様に現段階では人工知能は感情等を持っておらず、この内特に理性は動物の中でも人間のみが持つものであり、社会性を司る理性(※3)による判断は人間社会において欠かせないものである。またこれらは人間自身も論理的に説明が出来ていないものであり、もし人工知能がそれを得たとしても、それが本当に人間と同様の感情や理性か判断する事は難しい。よって人工知能がこれらを得る事は出来ないと言える。

AIの活用が議論される主な分野

司法や捜査	交通
裁判資料の分類作業、公判調書の作成	自動運転車
被告の犯罪歴などから保釈申請の認否を判断	最適なタイミングで切り替えて渋滞を緩和する信号
容疑者やテロリストなどを追跡	気象条件などをもとに事故の発生確率を予測
不審者を特定する顔認証技術	医療
娯楽	外科手術のサポート
囲碁、将棋	胎児の見守りサービス

図1.産経新聞「【サイバー潮流】」

(<https://www.sankei.com/premium/news/180717/prm1807170002-n1.html>)

1-2.これからの社会における人間の役割とは

これからの未来において、人工知能が生活から産業まであらゆる面で活用されていく事が予想される。これは人工知能の発達のみでなく、少子高齢化の加速なども理由となっている。

前述の人工知能が活躍する未来において、人間がどう活躍していくかが重要な課題とされている。人間は1-1で述べたように、人工知能には無い感情や理性を持っており、これらが特に活かせる点として、倫理観を用いる活躍が適している。倫理観を伴う働きはその場の状況や社会情勢、そして当事者の感情の動きを理解する事でしか行う事が出来ないため、感情などを持たない人工知能には無理な作業であり、人間の役割としてふさわしい。